資料①

第6回紀の川市長期総合計画審議会　議事録

日時/会場		令和8年6月30日（火）13:30-15:10　/　本庁舎3階　庁議室
出席者	紀の川市	出席者名簿のとおり（欠席：加藤委員、青木委員）
	事務局	企画経営課：東、増田、児玉、西端、北山、甲佐 委託業者：現地/石堂、眞鍋　オンライン/井上、坂井
議題		1. 開会 2. 議事 3. 閉会
資料		・ 第6回審議会次第 ・ 紀の川市長期総合計画審議会名簿 ・【資料①】第5回審議会議事録 ・【資料②】現行計画の評価結果報告書 ・【資料③】序論素案 ・【資料④】総合計画と総合戦略一体的策定の整理 ・【資料⑤】紀の川市長期総合計画審議会令和8年度のスケジュール

■　議事内容

※開会に先立ち、事務局より新規審議会委員に市長からの委嘱状を交付した。

1.　開会

※事務局より配布資料等について説明した。

【会長】

お忙しい中、お集まりいただき感謝申し上げる。前回の審議会では、基本構想素案のパブリックコメント結果に基づいて審議し、答申を行った。その後、基本構想素案は、市議会で承認された。

本日の審議会では、現行計画の評価結果の報告、序論に関する審議を行う予定である。また、前回審議会で質問があった総合計画と総合戦略の一体的策定を説明する。

なお、今後は基本計画の審議となるため、審議会委員同士の意見交換を活発化したい。

(1)　前回議事録の確認

※会長より議事録を説明し、委員の皆様から議事録の内容確定に了承いただいた。

2. 議事

(1) 現行計画の評価結果報告書について

※事務局より議事（1）「現行計画の評価結果報告書」について説明した。

【委員】

記載する評価結果は、令和7年度ではなく令和6年度の結果で間違いないか確認したい。

【事務局】

令和7年度評価結果は、現在各課に照会中であるため、令和6年度評価結果が最新であるため、令和6年度評価結果をもとに序論を作成していく。

【会長】

令和7年度の評価結果では、資料に記載している内容の進捗がある可能性はあるが、序論の内容が大きく変更となることはないという認識である。

【委員】

モニタリングの主体を確認したい。

【事務局】

紀の川市における行政評価制度の評価者は行政（各事業担当部課）であり、行政が目標を設定し進捗状況の確認（モニタリング）をしている。

(2) 序論素案について

※事務局より議事（2）「序論素案」について説明した。

【委員】

資料③P7「第1章（1）計画策定の趣旨」では、デジタル化・AI・ロボット活用など、近い将来発生する可能性がある社会変化を踏まえた内容の記載を検討してほしい。

【会長】

デジタル化等については、P15「第1章（5）デジタル化とAIの潮流」で記載されているが、より冒頭での記載も検討した方がよいのではないかという意見である。

【事務局】
資料③P7「第1章（1）計画策定の趣旨」には「ライフスタイルの多様化、デジタル化や脱炭素化」と記載している。より具体的な記載や表現の変更を検討する。

【委員】
資料③P9「第2章　第2次紀の川市長期総合計画の取組状況と課題」は、具体的な成果指標の結果を確認できるように記載した方がよいと思う。どの施策でどのような成果指標がいくつ設定されているかなどの詳細がわからない。成果指標の達成状況について、目標達成した成果指標が多い・少ないではなく、どの成果指標が達成できているか、達成できていないかを確認したい。

【委員】
資料③P12「第2章（3）交流と活気が生まれるまち～ともに生きがいを持とう～」に「特に観光振興は、景気動向や気候条件など行政の取組以外の影響を受けた」と記載があるが、目標を下回った成果指標の割合が100%となっている理由について担当課がこのような評価をした根拠を教えてほしい。

【事務局】
評価の根拠となる資料を次回までに用意する。

【委員】
「行政取組以外の原因」について、具体的な内容がわかるような資料を準備してほしい。

【事務局】
「行政取組以外の原因」は、地震等の災害や新型コロナウイルス蔓延などの影響によるものである。序論は、令和6年度までの市職員の行政評価結果をもとに作成しているため、根拠データとしてより詳細な行政評価の結果をお示しさせていただく。令和7年度の行政評価は現在実施中であり、基本計画の検討の際には、令和7年度の評価結果も参考にする想定である。

【会長】
市民が市政に関心を持ち、市政に参加することは重要である。そのため、市民の代表である審議会委員にとって違和感がある部分は、審議会委員の意見を踏まえて検討し、必要に応じて更新する必要がある。

【委員】
目標を達成した項目、達成していない項目の割合を掲載しているが、現在の記載方法では、目標を達成したため力を抜く、目標を達成していないため力を入れると読み取れる。市の意図と異なる場合は、割合を掲載することに意味がないと考えている。総合計画はあらゆる分野を総合的に実施していくための計画であるため、表現の

工夫が必要であると思う。

【会長】

資料③P11「第2章（2）育み学ぶ元気なまち～ともに育み生涯学ぼう～」のグラフでは、「歴史資産の保護・活用」の現行計画の評価は100%となっている。現行計画の目標が達成できたということであるが、施策としての取組が終了しているとも読み取れる。

【事務局】

現行計画でどの程度目標を達成できたかを評価しており、現行計画の取組の進捗確認として記載している。この割合をもとに次期計画の取組や施策の取捨選択をするわけではないため、事務局の意図が適切に伝わるように記載方法を検討する。

【委員】

市民アンケートの結果は、序論に記載しないか確認したい。

【事務局】

市民アンケートの結果は、基本計画での反映を検討している。各課が考えている現状や課題と市民が考えている現状や課題で、認識に齟齬がないか確認するために活用する予定である。

【会長】

資料③P7「第1章（1）計画策定の趣旨」などで「アンケート結果を反映させながら」と記載し、市民として、自らの意見が計画に反映されていると実感できると思う。

【委員】

資料③P11「第2章（2）育み学ぶ元気なまち～ともに育み生涯学ぼう～」のグラフでは、「子供の力を伸ばす教育」で目標を大きく下回った成果指標の割合が60%もあることが気になる。資料②P27では、不登校や学校規模の問題が現状と課題として記載されているが、教員と児童の良好な関係性の構築に関する記載がなく、今後の取組の方向性にも記載がない。教員は若い教員が多く、若い教員をサポートできる教員が限られている。自治体として、学級経営を重要視した取組を展開してほしい。

【委員】

教育関連の施策では、目標を大きく下回っている指標が多いが、学校が教育に関して何も取組をしていないいと捉えられてしまうのではないかと懸念している。人員の配置や各学校の取組など、市民が気になっていることについて記載してほしい。

【委員】

住民自治に関しても人口減少が大きな問題である。人口減少の進行は、住民自治に影響する。限界集落では、近い将来に住民自治が崩壊する可能性もあるため、市民に意識してもらうため危機感についての記載もしてほしい。また、限界集落に近づいている集落数の調査もしてほしい。

【委員】

資料③P11「第2章（2）育み学ぶ元気なまち～ともに育み生涯学ぼう～」のグラフでは、目標を下回った成果指標の割合が多く、紀の川市で子供を育てるのがよいか不安を抱くと思う。親世代が子供を育てたいと感じる環境を作るために、課題の段階でより具体的な記載が必要ではないかと考える。

【事務局】

資料③P9「第2章　第2次紀の川市長期総合計画の取組状況と課題」では、行政評価結果から現行計画の取組状況と課題を整理している。課題を中心に整理しているため、マイナスイメージを強調しているように受け取られる可能性はあるが、記載方法を再検討する。

【委員】

高齢者の一人暮らしが増加しており小学生などの若者がいない。紀の川市として山間部の過疎地域についての対策を考えてほしい。

資料③P14「第3章　本市を取り巻く社会・経済情勢の変化」では、国と県の動向について記載されているが、紀の川市についての記載がない。また、「今後は」として必要な取組などが記載されているが、「紀の川市の今後」という理解でよいのか確認したい。「今後は」の対象が市であるならば、市の現状についての記載が必要なのではないかと考えている。

【事務局】

「紀の川市を取り巻く環境」として、国や県の動向を記載している。「今後は」の主語は紀の川市であるため、市として今後どのような対応を行うかという主体性を持った記載を検討する。

【会長】

地域ごとの事情を網羅的に記載することは難しいが、市民が疎外感を抱かないような記載を検討してほしい。

【委員】

小学校の統廃合は、昭和や平成の地域の姿からの大きな変更であり、地域に住む住民のアイデンティティが消失する可能性がある。過疎化が進み効率的な行政経営が必要であるとしても、地域の伝統を継承できるような取組を具体化してほしい。

【委員】

資料③P18「第4章（3）これまでの検証結果と今後の方向性」で、観光でも人口減少の影響は大きいため、記載を検討してほしい。関係人口が増加し、それにより交流人口が増加し、結果として常住人口が増加するという人口増加の流れがあると考えている。関係人口や交流人口という文言の記載を検討してほしい。

【委員】

山間部では、キャンプ場の整備やイベントを実施しており、地域の盛り上げに取り組んでいる。官民連携の取組などについて記載してほしい。

【委員】

資料③P8「第1章（2）計画の構成」では、基本計画の説明として「基本構想を実現するために、必要な取組を体系的に示しています」とあるが、基本計画はどこに記載しているか確認したい。

【会長】

住民の行政への参加は重要であり、住民からの協力を得られるよう、住民が取組に賛同できる序論としてほしい。

【事務局】

総合計画の構成は、序論、基本構想、基本計画とする予定である。基本構想では「みんなでつなげる　わくわくの未来　実りあふれる　住みよいまち」を市の将来像として掲げている。「つながる」ではなく「つなげる」という表現を用いている理由は、住民と協力してまちづくりをしていくという意思表示であるため、住民からの協力が得られるような序論の記載を検討する。

【事務局】

資料③の表紙には、「前期基本計画」と記載しているが、今回は序論部分のみを提示している。第3部の基本計画で課題や具体的な取組について記載し審議をお願いする予定である。

【会長】

今後第3部を議論する中で、序論に記載すべき内容が出ることも考えられる。今回の意見をもとに、まずは序論の修正をいただくこととする。

(3)　総合計画と総合戦略との一体的策定について

※事務局より議事（3）「総合計画と総合戦略との一体的策定」について説明した。

【委員】
　リバーシブルになっており、第4章のみを抜き出せば、まち・ひと・しごと創生総合戦略になるという認識でよいか確認したい。

【事務局】
　同一冊子内に別々に掲載する予定であるが独立したものになる。

【委員】
　総務省に提出が必要という理解であるが、その際は総合計画全体とするか該当の章を抜き出して提出するか確認したい。

【事務局】
　総務省には、第4章のみを総合戦略として提出する想定である。総合計画には、第4章が総合戦略であることを明記する。

【委員】
　序論に関する内容は、総合計画と総合戦略で連動するという認識で間違いないか確認したい。

【事務局】
　関連しないということはないが、別建ての編成を想定している。

【会長】
　序論は第3部までに関連し、第4部の総合戦略は関連がない掲載ということか確認したい。

【事務局】
　資料④P6で示しているとおり、序論は第4部の総合戦略には関連しないイメージである。

【会長】
　総合計画と総合戦略で、関連する箇所は明示する想定か確認したい。

【事務局】
　密接に関連する部分もあるため、策定の過程でわかりやすい構成となるよう検討する。

【委員】
　可能な限り、内容をわかりやすく具体的に記載してほしい。人口減少により全般的に厳しい状況であるが、大

阪では交流人口が増加している事例もあるため、紀の川市においても新たな動きや具体例を示し、それを今後の展望につなげるような記載を検討してほしい。

【事務局】

資料④P3で示しているとおり、総合戦略は、雇用創出、定住促進、経済振興などが対象分野であり、総合計画の記載と整合を取りながら、どこまで具体的にわかりやすく記載できるか検討する。

【委員】

資料④P6「若者や女性にも選ばれる地域づくり」という記載は適切か確認したい。また、若者や女性にも選ばれる地域づくりとはなにか確認したい。

【事務局】

該当部分は、国の総合戦略の内容を引用している。また、国の総合戦略では、若者や女性が議論の場に参加できるよう、議論の場を整備することが地方創生を果たすために重要であると記載されている。

(4)　令和8年度の審議会スケジュールについて

※事務局より議事（4）「令和8年度の審議会スケジュール」について説明した。

(5)　その他

※協議なし

【会長】

次回以降の審議会では、より具体的な取組等の内容の審議となる。より一層の協力をお願いする。

3.　閉会

【事務局】

お忙しい中、長時間ご審議をいただき感謝を申し上げる。先日の6月議会では、市議会全会一致で基本構想が可決された。多くのご審議をいただいた結果であると考えており、改めて感謝申し上げる。

今後はより具体的な内容となり、専門的な知見や市民としての視点での意見が重要となる。市の現状を把握いただけるよう、また、より議論が活発になるよう資料の準備を進めたい。基本計画がより市民の意見を反映できるように取り組んでいく。基本計画の策定に向けて、委員の皆さまには引き続きご協力をお願いする。

【事務局】

第7回審議会は、8月下旬を予定している。後日正式な開催通知を送付する。

以上